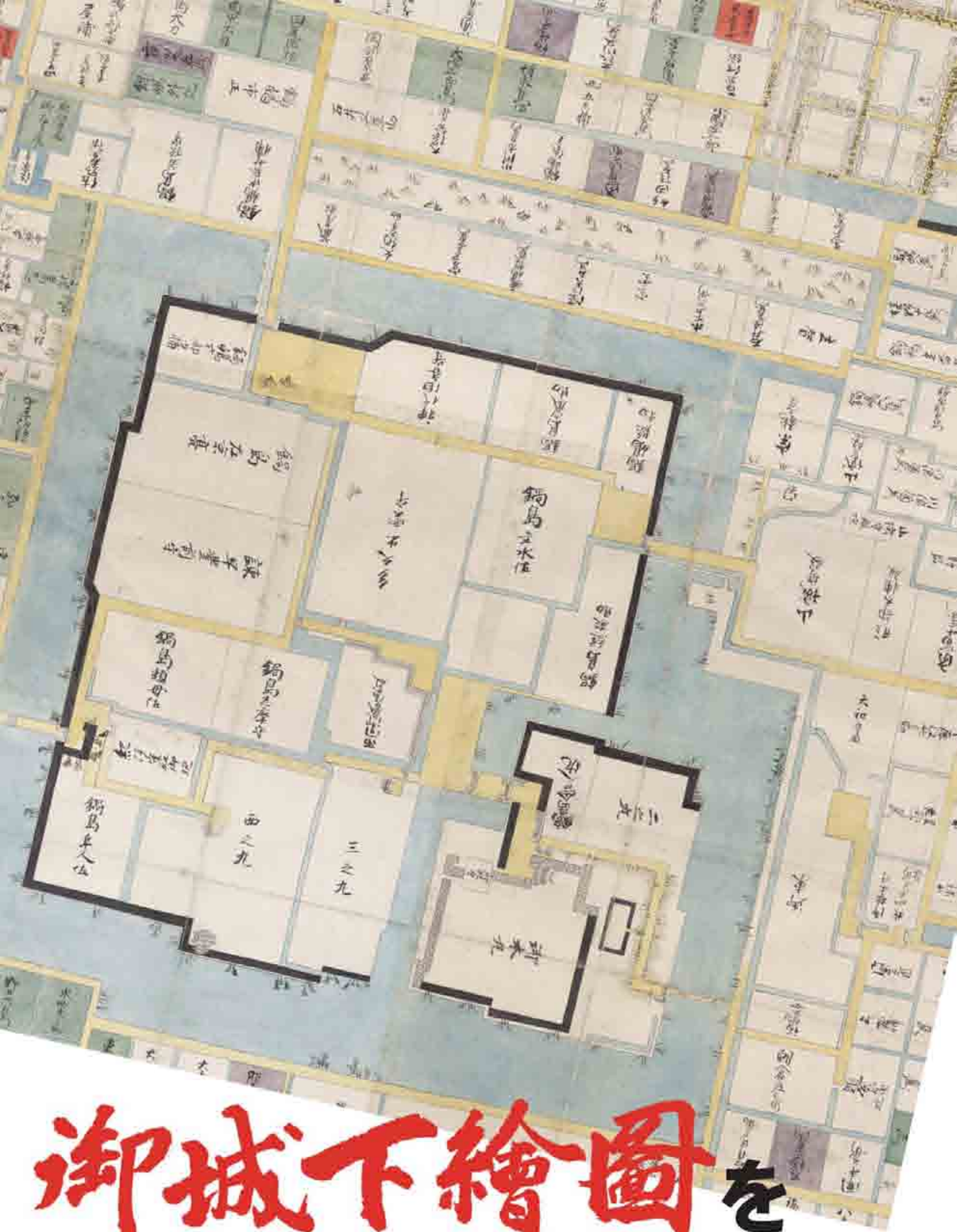




御城下繪圖を 読み解く

「あゝいさ」

城下町佐賀の住宅地図と言える御城下絵図には、この町の豊かな歴史が詰まっています。御城下絵図は城下が建設された慶長年間から江戸後期の文化年間に至るまで、約二〇〇年間で八期分が現存しており、うち七期（十三点）は旧佐賀藩主鍋島家に伝来したもので、財団法人鍋島報効会が所蔵しています。

昨年度、文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業の一環として、複製パネルも含めこれら七期の絵図すべてを徴古館で初めて一堂に公開することができ、多くの反響を頂きました。そして、引き続き今年度も文化庁の支援を受け、八つの市民団体とともに絵図の読み解きを進めてきた成果が本展の内容です。

本展では「葉隠」^{はかくれ}、大名庭園「観願荘」^{かんいそう}や藩校弘道館^{こうどうかん}、町人地の住民台帳である竈帳^{かまど}、佐賀城下の蒔絵師芦刈梅吉^{あしかりのめきち}など多彩な観点から絵図を読み解きます。これらの成果から、来館者の皆さまが御城下絵図のもつ豊かな情報や、今後のさらなる読み解きによるまちづくりの可能性を感じ取って頂けましたら幸いです。最後に、本展開催にあたり貴重な資料をご出品いただきましたご所蔵者各位をはじめ、ご協力・ご助言いただきました皆さまに感謝の意を表します。

平成二十二年十一月八日

財団法人 鍋島報効会

鍋島報効会は、本展開催時は財団法人でしたが、平成二十五年四月一日に公益財団法人へ移行しました。



目次

ごあいさつ	1
目次・凡例	2
図版・解説	3
◆ 城下を読み解く、さまざまな絵図	3
◆ 御城下絵図と「葉隠」	14
◆ 御城下絵図と聖堂	28
◆ 町人地と竈帳	37
◆ 佐賀城下の蒔絵師 芦刈梅吉	43
出品リスト	51

凡例

一、この図録は、平成二十二年十一月八日(月)から平成二十三年一月二十九日(土)まで、平成二十二年度文化庁美術館・歴史博物館活動基盤整備支援事業「佐賀城下絵図を読み解き、まちづくりに活かそう!」の一環として、財団法人鍋島報効会が主催し、徴古館において開催した第五十一回展「御城下絵図を読み解く」展の解説付き目録である。但し出品資料で未掲載のものもある。平成二十八年四月の再版にあたり、企画展開催以後の知見も付加して増補改訂した。

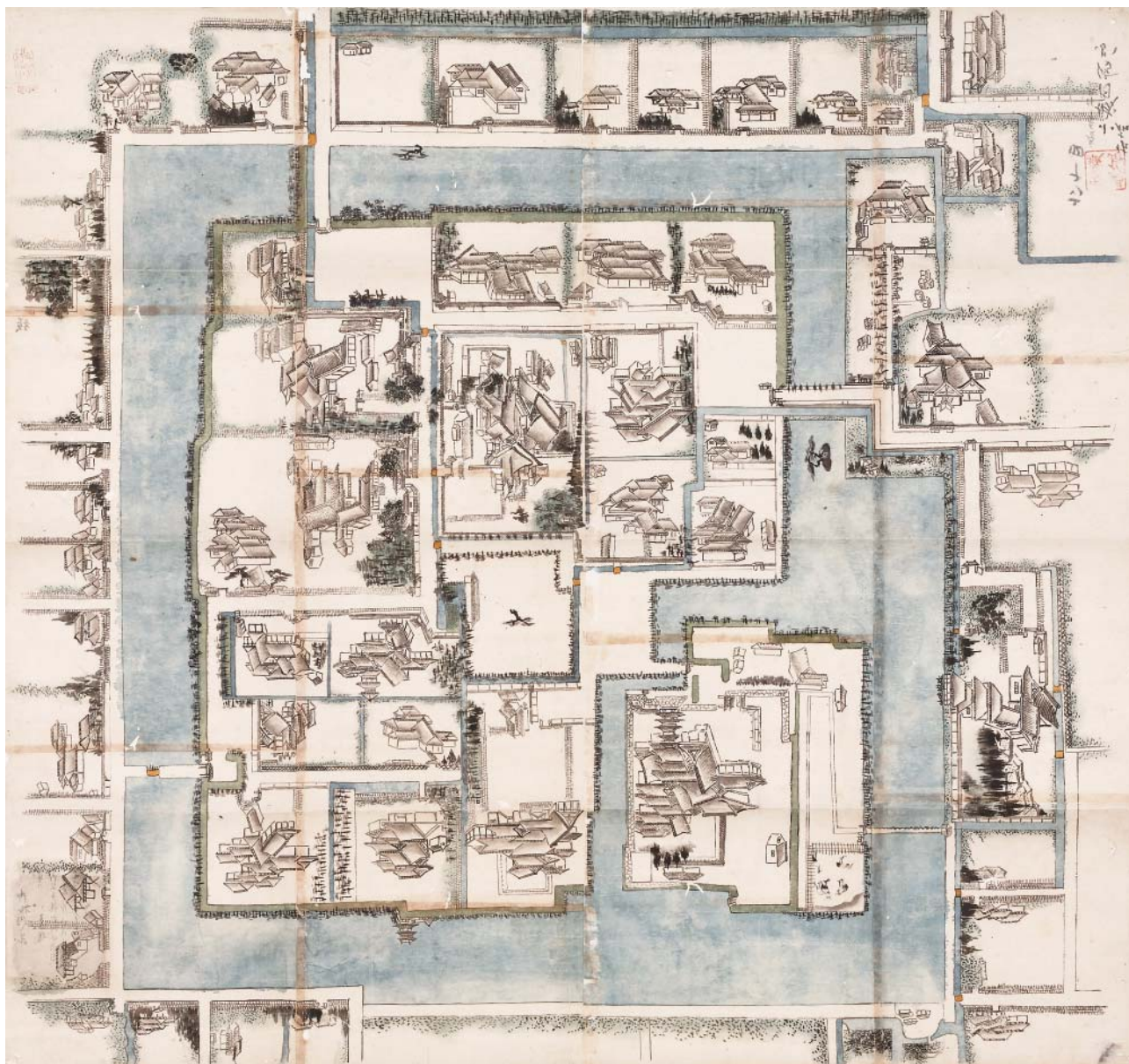
一、資料解説の表記は、資料名称、員数、所用者・作者、時代・年代、法量(単位はセンチメートル)、材質技法、指定名称、所蔵者、解説の順に記した。但し所蔵者名は博物館・美術館等のみを記し、ほかは個人蔵とした。また公益財団法人鍋島報効会が所蔵し、佐賀県立図書館に寄託している鍋島家文庫資料については「鍋〇〇〇〇〇」という請求番号を付した。

一、解説文中の史料引用は、漢字を平仮名にするなど適宜表記を改め、また読み下し文にして送り仮名を補うなど、解説の便を図ったところがある。

一、芦刈梅吉関係の漆工品の作者に関しては、ご所蔵家の伝来に基づき、いずれも芦刈梅吉作とみなした。

一、執筆・編集・製作は公益財団法人鍋島報効会 徴古館主任学芸員富田紘次が行い、芦刈梅吉作品は学芸員(当時)野口朋子による執筆解説を用いた。校正は徴古館副館長藤口悦子・富田紘次・学芸員池田三紗が行った。

一、図版の写真撮影は、久我秀樹(久我写真事務所)、株式会社とっぺん、富田紘次が行った。ただし出品資料No.29およびNo.31は、所蔵機関よりご提供いただいた写真を使用した。



5 佐嘉小城内絵図

一幅 慶長年間（一六〇一年頃）／江戸後期書写

縦九七cm 横一〇一cm

紙本彩色墨書 掛幅装

公益財団法人鍋島報効会所蔵

戦国時代に佐賀城を拠点として肥前を治めていた龍造寺氏は、天正十二年（一五八四）に隆信が戦死し、子の政家、孫の高房が慶長十二年（一六〇七）に相次いで没した。これ以前から進められていた鍋島直茂・勝茂父子による佐賀城の整備は、同年に勝茂が初代佐賀藩主となり名実ともに鍋島佐賀藩が成立したことでさらに加速する。佐賀城惣普請が始まったとされるのはその翌年からである（勝茂公御年譜）。

本図は、裏書で「日峯様御父子様、御城御再興遊ばされ候御時代の御絵図と相聞え候」と伝えるように、直茂（日峯様）・勝茂父子の時代に整備された佐賀城内および堀端を描いた絵図である。御城下絵図は、社殿や楼門を描く神社などを除けば、各屋敷地内には原則として居住者名のみを記す住宅地図であり、建屋までは描かれない。一方で本図は、佐賀城内および堀端に位置する重臣屋敷のほか、本丸御殿や天守閣などの建屋が絵画的に詳細に表されており、往時の姿をイメージする上での好資料と言える。例えば天守閣は享保十一年（一七二六）に焼失してしまったが、本図では五層の屋根をもつ姿で描かれている。

龍造寺氏が経営したいわゆる村中城における曲輪の構成は、隆信の居館が諫早家屋敷の位置に、子の政家の居館が武雄鍋島家屋敷に置かれ、二の丸は多久家屋敷の位置にあった（*）。本図で緻密に描かれている屋敷地を囲む塀や生垣、門の表現を見ると、本丸以外で唯一、門の上に櫓を設ける櫓門形式をもつ諫早家屋敷の門は本丸の門よりも規模が大きく表され、隅櫓が二ヶ所に認められるのも諫早家屋敷のみである。また三ヶ所認められるのは武雄鍋島家屋敷のみであり、屋敷地の三方を塀で囲むのは多久家屋敷（二の丸）のみである。このように、鍋島直茂・勝茂による慶長年間の築城が、龍造寺氏の居城をベースにした形で進められた様子が視覚的にうかがわれるのである。

（*）『佐賀市埋蔵文化財調査報告書第86集 佐賀城跡Ⅳ』佐賀市教育委員会、平成二十七年



文化御城下絵図 文化7年(1810)頃



元文佐賀城廻之絵図 元文5年(1740)



承応佐賀城廻之絵図 承応3年(1654)

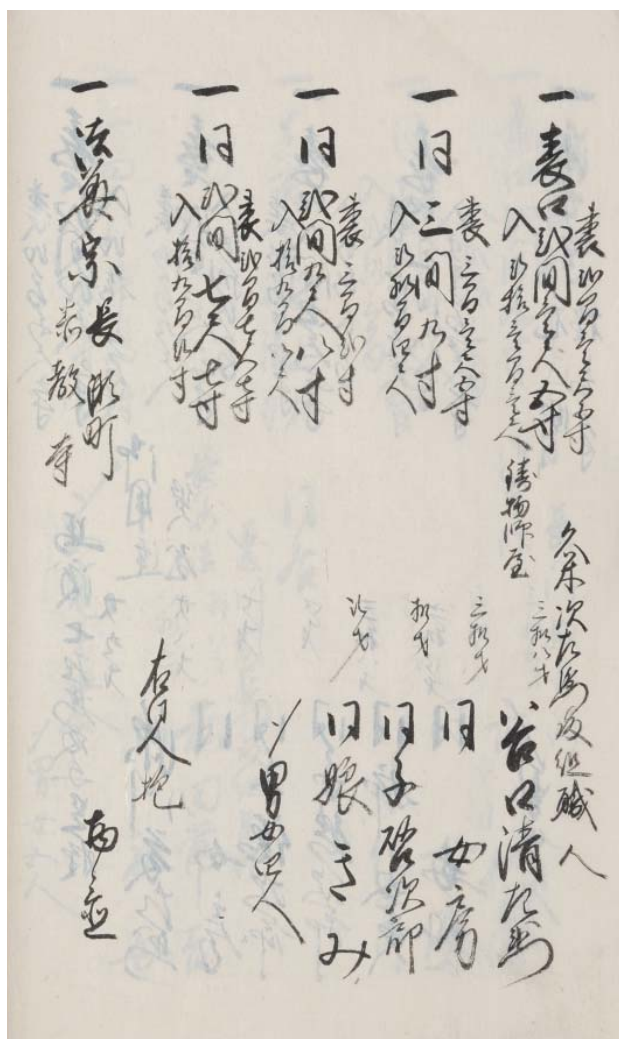
鬼丸地区の移り行き

承応三年(一六五四)の佐賀城廻之絵図(出品資料No.2)では、城南西部の鬼丸地区は整然とした藩士の住宅街の観を呈しており、「青色(緑色)」で着色された小城藩士が集中的に居住している。ところが延宝八年(一六八〇)には「小城御家中も漸々佐嘉屋敷を売り払い、小城の様に引き取り候者多し」(「直能公御年譜 巻七」(*)とあるように、十七世紀後半には分家の藩士が佐賀城下から数多く退去している。その状況を「葉隠」(出品資料No.8)は、「皆々佐嘉を立ち退き、御主人方も御在所御在所へ御引き取り、月堂様(初代小城藩主鍋島元茂)御霊屋を宗智寺に引き取り、その後隔心でき、殿様(本家当主)を御本家と唱え、御主人方(分家当主)を殿様と申し候て、別旗立て申し候」と伝えている。

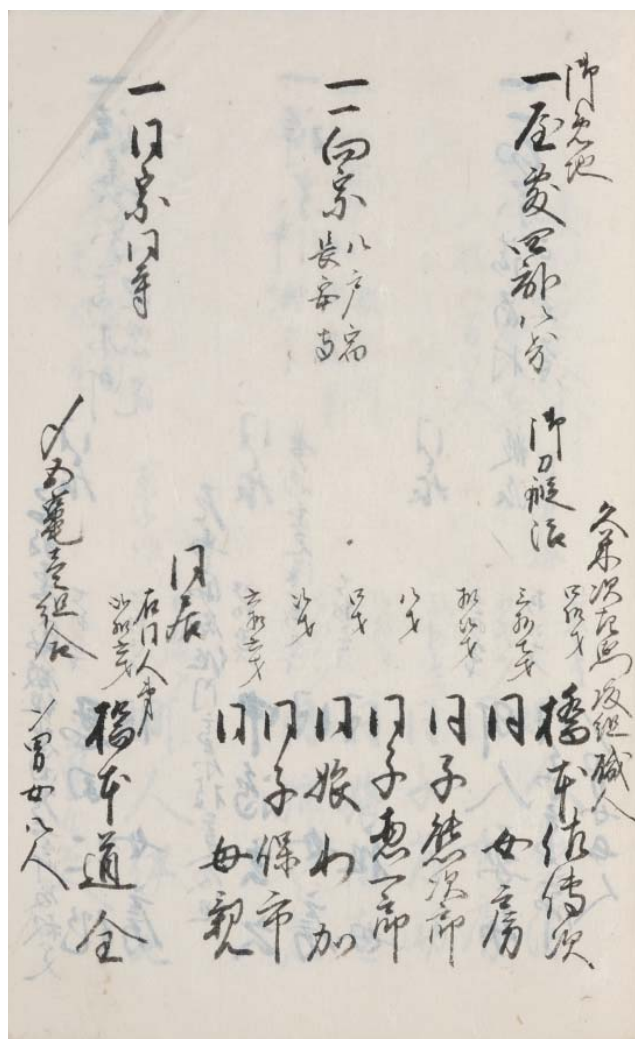
こうした中で元禄十一年(一六九八)、この一帯に三代藩主鍋島綱茂が大規模な別邸「観願荘(西御屋敷)」を造営した。ところが跡を継いだ弟の四代藩主吉茂は、綱茂の逝去(宝永三年十二月二日)から間もない宝永四年(一七〇七)二月に、早くも枝吉利左衛門はじめ八名の藩士に屋敷地として分割して与えている。また吉茂は翌年五月に、御石火矢方の新藩主古人は西御屋敷で稽古すべき旨を仰せ付けるなど、この段階で聖堂を除く庭園の大部分がその役割を終えたものとみられる。

元文五年(一七四〇)の佐賀城廻之絵図(出品資料No.3)では、残された「聖堂」が見えるほか、庭園の名残とみられる池泉や歪な形の水路があり、屋敷地も複雑に入り組んでいる様子が確認できる。その西端に位置する広大な屋敷地は「諫早石見抱」とされている。七代藩主鍋島重茂の時代には、「(重茂が)諫早豊前十五茶屋入らせらる。(即ち唯今の十五御茶屋なり)」(「重茂公御年譜」宝暦十二年三月二十九日条)とあることから、諫早家(佐賀藩親類同格)の所有だったことがわかる。明和八年(一七七二)の「屋鋪御帳扣(明和屋敷帳)」(出品資料No.16)では「御茶屋」と記されているため、この頃までに藩主家の所有に切り替わったのだらう。文化七年(一八一〇)頃の文化御城下絵図(出品資料No.4)でも「御茶屋」と記載されている。

(*)『佐賀県近世史料』第二編第一巻、佐賀県立図書館、平成二十一年



鑄物師屋 谷口清左衛門



御刀鍛冶 橋本佐傳次

23 長瀬町竈帳

一冊 嘉永七年(一八五四)

縦二六・九cm 横一八・六cm

紙本墨書 冊子装

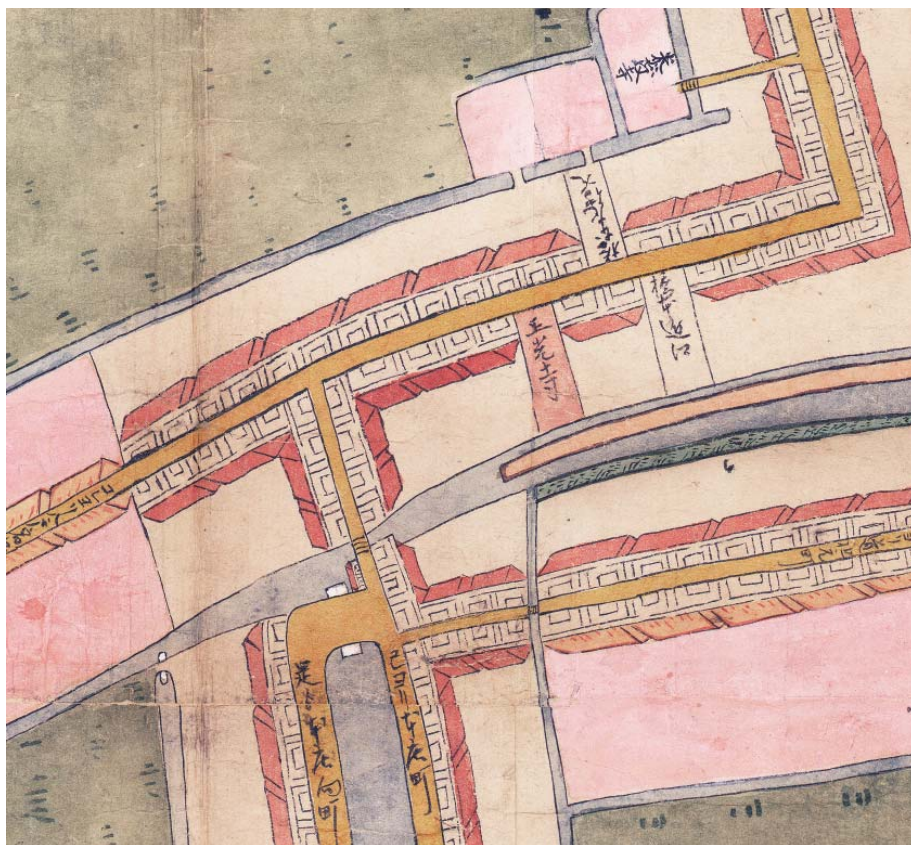
公益財団法人鍋島報効会所蔵(鍋三一六・一八)

佐賀城下のもととも西に位置する町人地が長瀬町。城下建設が進められた慶長年間に初代藩主鍋島勝茂に召し抱えられた刀鍛冶初代忠吉らが城下北郊の長瀬村(上佐嘉下郷長瀬村/現・佐賀市高木瀬町大字長瀬)から移り住んだとされる。それ以降、橋本家は同町で連綿と作刀を続け、「長瀬町竈帳」には御免地を与えられた「御刀鍛冶」としてその名が確認できる。また鍋島勝茂が、寛永十四年(一六三七)、英彦山に寄進した銅の鳥居(国指定重要文化財)の鑄造者として柱に名を刻んだ「谷口清左衛門」家や谷口弥右衛門も、幕末の竈帳に「鑄物師(屋)」として記載されている。

『佐嘉城下町竈帳』*の集計によれば、城下全体の鍛冶職人五十四名のうち三五%にあたる十九名が長瀬町にいるほか、刀鍛冶は六名全てが長瀬町、鑄細工は二名とも長瀬町、鑄物師(屋)は三名のうち二名が長瀬町など、鍛冶や鑄物関係の職人が群を抜いて多い。*三好不二雄・嘉子編『佐嘉城下町竈帳』九州大学出版会、平成二年

このように竈帳により長瀬町が職人町として栄えたことがわかるが、天明七年(一七八七)の次の資料もその性格を物語っている。「長瀬町の儀、明屋敷多く、御城下市中無双零落の場所にて、平日旅人通路にも見苦しく、明春巡見使下向等の節も、只今の儘にては閑かれ難きにつきて、役筋において吟味の処、店商売等これ無き場所につき、細工人等引き移り候様これ有りたく、鹿子村へ鍛冶数人罷在り候内、この節左の通り引き移り候よう取り計らうべし」(「泰国民院御年譜地取」)。長瀬町は「店商売等」が無い場所であり、明屋敷を埋めるために城下南郊の与賀上郷鹿子村から刀鍛冶を移住させている。

竈帳が作成される四年前の嘉永三年(一八五〇)、長瀬町のほど近くに築地反射炉の建設が始まった。佐賀藩はここで長崎警備のための洋式大砲の鑄造に取り組むが、その際、橋本家や谷口家をはじめ彼らのもつ伝統的な鍛冶や鑄物の在来技術が活かされ、わが国で初めての鉄製大砲の鑄造が実現した。



元文佐賀城廻之絵図 元文5年(1740)

長崎街道が大きくL字形に折れ曲がる地点からやや西側に橋本家の屋敷地が記されている。街道の南側に「橋本近江」、北側に「橋本左傳次」の屋敷地が確認できる。御城下絵図では町人地には町屋が軒を連ねる様子が模式的なイラストで表現され、原則として寺社名を除けば居住者名は記されない。ただし長瀬町の橋本家のように、御免地を拝領している職人などについては記載の対象とされているのである。

元文佐賀城廻之絵図(出品資料No.3)では、桃色で着色された区域は、色分け凡例では「郷地」とされている。郷地とは城下に隣接する「〇〇郷」に属する区域という意味で、例えば長瀬町の西に接続する八戸は「コレヨリ八戸宿 郷方」と記されているが、ここは「与賀上郷」に属する地区である。郷地の建屋表現は屋根がやや薄い橙色で塗られ、細線が描き込まれるなど、町人地の町屋とは区別されている。



24

黒蠟色塗打刀拵

一式 初代藩主鍋島勝茂所用 江戸時代初期(一七世紀)
 (拵) 全長一〇二・五cm (筭) 全長二二・五cm
 (小柄) 全長九・六cm 幅一・四cm
 公益財団法人鍋島報效会所蔵
 (佐賀県立博物館・美術館 寄託)

初代忠吉作の刀(次ページ)の拵。車透鐔は金無垢に唐草模様。雲龍図をあしらう小柄・筭は時代が下るものと思われる。



27

酸漿に蝸牛形香合

一合 芦刈梅吉作 明治時代（昭和初期）
高さ四・四cm 縦四・六cm 横六・四cm 蝸牛全長三・八cm
木胎漆塗蒔絵 個人蔵

酸漿にとまる一匹の蝸牛を象った香合。酸漿は黒漆の上にまだらに朱漆を塗り、脈を朱漆で細密にあらわした上に金粉を蒔く。蝸牛の貝は巻貝そのものを用い、体部は切金で装飾し、角の先には黒漆で目をつくる。蓋裏と見込みは梨子地に切金を散らす。外観の写実性と蓋を開けた時の内部の装飾性とが融合した作品である。



金地諫鼓鶏蒔絵香合

一合 芦刈梅吉作 明治時代（昭和初期）
口径七・〇cm 高さ二・五cm 底径七・〇cm 胴張七・四cm
木胎漆塗蒔絵 個人蔵

香合全体を太鼓に見立て、蓋表には雄鶏を、底面には雌鶏を描く。蓋裏と見込みは梨子地に葛を薄肉高蒔絵であらわす。このモチーフは中国の故事「諫鼓鶏」に由来するものである。諫鼓とは中国の聖天子が設置した太鼓で、施政について不満があれば打ち鳴らさせるようにしたが、善政が続いたため諫鼓を鳴らす人もなく、鶏がその上に乗って遊んだという。通常は太鼓の上に鶏が乗る構図が一般的であるが、それをひとつの香合のなかにまとめた図案構成は見事である。

出品リスト

No	資料名	員数	時代・年代	作者・所有者	法量	所蔵者等
第一章 ◆ 城下を読み解く、さまざまな絵図						
1	慶安御城下絵図（パネル展示）	一冊	慶安二年（一六四九）		縦二五 cm 横三一五 cm	公益財団法人鍋島報效会所蔵
2	承応佐賀城廻之絵図	一幅	承応三年（一六五四）		縦二〇 cm 横二一〇 cm	公益財団法人鍋島報效会所蔵
3	元文佐賀城廻之絵図（パネル展示）	一冊	元文五年（一七四〇）		縦二二 cm 横一九二 cm	公益財団法人鍋島報效会所蔵
4	文化御城下絵図	一幅	文化七年（一八一〇）頃		縦一〇二 cm 横一四二 cm	公益財団法人鍋島報效会所蔵
5	佐嘉小城内絵図	一幅	慶長年間（一六一〇年頃）／江戸後期書写		縦九七 cm 横一〇一 cm	公益財団法人鍋島報效会所蔵
6	武雄鍋島家佐賀御屋敷御意図（パネル展示）	一冊	天保十一年（一八四〇）		縦一〇六 cm 横二四一 cm	公益財団法人鍋島報效会所蔵
7	諸御手数帳	三冊	江戸時代後期		縦二六・九 cm 横一七・九 cm	公益財団法人鍋島報效会所蔵（鍋三・七・二）
第二章 ◆ 御城下絵図と「葉隠」						
8	葉隠（山本本）	十一冊	享保元年（一七一六）成立	山本常朝口述・田代陣基編	縦二五・八 cm 横一八・五 cm	公益財団法人鍋島報效会所蔵（鍋〇・六三・三四）
9	山本神右衛門常朝年譜	一冊	享保四年（一七一九）	山本常朝筆	縦二六・七 cm 横二〇・二 cm	公益財団法人鍋島報效会所蔵（鍋〇・三四・一八）
10	山本神右衛門重澄年譜	一冊	宝永四年（一七〇七）	山本常朝筆	縦二六・七 cm 横一九二 cm	公益財団法人鍋島報效会所蔵（鍋〇・三四・一七）
11	中野神右衛門清明年譜	一冊	正徳四年（一七一四）	山本常朝筆	縦二七・五 cm 横一九六 cm	公益財団法人鍋島報效会所蔵（鍋〇・三四・一四）
12	愚見集	一冊	宝永五年（一七〇八）	山本常朝筆（山本権之丞宛て）	縦二五・六 cm 横一八・七 cm	公益財団法人鍋島報效会所蔵（鍋〇・六三・二）
13	錢別	一卷	正徳五年（一七一五）	山本常朝筆（山本権之丞宛て）	縦一六・三 cm 全長二四四・二 cm	公益財団法人鍋島報效会所蔵
14	乍恐置置之覚	一冊	正徳四年（一七一四）	山本常朝筆（神代直堅宛て）	縦一六・五 cm 横四六・五 cm	公益財団法人鍋島報效会所蔵
15	元文屋敷帳（城下大曲輪内屋敷帳）	五冊のうち一冊	元文五年（一七四〇）		縦三〇・八 cm 横二一・六 cm	公益財団法人鍋島報效会所蔵（鍋八・三二・二）
16	明和屋敷帳（屋鋪御帳扣）	十二冊のうち一冊	明和八年（一七七二）以降 幕末頃まで書継ぎ		縦三〇・九 cm 横二一・八 cm	公益財団法人鍋島報效会所蔵（鍋八・三二・三）
第三章 ◆ 御城下絵図と聖堂						
17	観願荘図	一幅	江戸時代後期カ		縦六三 cm 横一四〇 cm	公益財団法人鍋島報效会所蔵
18	鬼丸聖堂の聖像	三躯	（孔子倚座像）江戸時代中期 （顔子立像）宝暦十一年（一七六二） （不詳立像）宝暦十二年（一七六二）カ	（顔子立像）水谷作之進 作カ （不詳立像）水谷作之進 作カ	（孔子倚座像）像高六二 cm （顔子立像）不詳立像 像高六〇 cm	公益財団法人鍋島報效会所蔵（佐賀市指定重要文化財）
19	天縦殿扁額	一面	享保十年（一七二五）	鍋島宗茂筆	縦八〇 cm 横五五 cm	公益財団法人鍋島報效会所蔵（佐賀市指定重要文化財）
20	明和屋敷帳（屋鋪御帳扣）	十二冊のうち一冊	明和八年（一七七二）以降 幕末頃まで書継ぎ		縦三〇・九 cm 横二一・八 cm	公益財団法人鍋島報效会所蔵（鍋八・三二・三）
21	学館図	一冊	江戸時代後期（十九世紀）		縦七九 cm 横一七六 cm	公益財団法人鍋島報效会所蔵（絵図・郷・一六七）
第四章 ◆ 町人地と電帳						
22	上今宿町・柳町・蓮池町電帳附帳	一冊	嘉永七年（一八五四）		縦二六・九 cm 横一八・六 cm	公益財団法人鍋島報效会所蔵（鍋三・一六・三）
23	長瀬町電帳	一冊	嘉永七年（一八五四）		縦二六・九 cm 横一八・六 cm	公益財団法人鍋島報效会所蔵（鍋三・一六・一八）
24	黒瓶色塗打刀拵	一式	江戸時代初期（一七世紀）	初代藩主鍋島勝茂所用	（拵）全長一〇・二五 cm（拵）全長二・五 cm （小柄）全長九・六 cm 幅一・四 cm	公益財団法人鍋島報效会所蔵 佐賀県立博物館・美術館寄託
25	刀 銘 肥前國佐藤原忠廣 寛永七年八月吉日	一口	寛永七年（一六三〇）	初代藩主鍋島勝茂所用 初代忠吉（藤原忠吉）作	長さ七五・六 cm 反り一・二 cm	公益財団法人鍋島報效会所蔵 佐賀県立博物館・美術館寄託（佐賀県指定重要文化財）
第五章 ◆ 佐賀城下の時絵師 芦刈梅吉						
26	材木町電帳	三冊のうち一冊	嘉永七年（一八五四）		縦二六・九 cm 横一八・六 cm	公益財団法人鍋島報效会所蔵（鍋三・一六・四）
27	酸漿に蝸牛形香合	一合	明治時代／昭和初期	芦刈梅吉作	高さ四・四 cm 縦四・六 cm 横六・四 cm 蝸牛全長三八 cm	個人蔵
28	金地諫鼓鶏時絵香合	一合	明治時代／昭和初期	芦刈梅吉作	口径七・〇 cm 高さ二・五 cm 底径七・〇 cm 胴張七・四 cm	個人蔵
29	金地待乳山聖天社時絵盆	一枚	明治時代／昭和初期	芦刈梅吉作（銘 梅吉）	口径九・七 cm 高さ二・一 cm 底径三・四 cm	立花家史料館所蔵
30	金地松竹梅時絵三組盆	一組	明治時代／昭和初期	芦刈梅吉作（銘 一秀）	（大）口径一〇・八 cm 高さ二・四 cm 底径三・九 cm （中）口径九・三 cm 高さ二・八 cm 底径三・四 cm （小）口径七・八 cm 高さ二・五 cm 底径二・九 cm	個人蔵
31	梨子地菊時絵太刀掛（パネル展示）	一基	大正五年（一九一六）	芦刈梅吉作（銘 一秀 謹作）	総高六〇・四 cm 口径一六・三 cm 底径一六・〇 cm	宮内庁三の丸尚蔵館所蔵
32	黒漆蒔菊時絵菓子器	一合	明治時代／昭和初期	芦刈梅吉作（銘 是真作）	高さ二・三 cm 縦八・六 cm 横八・六 cm	個人蔵
33	梨子地竹に雀時絵香合	一合	明治時代／昭和初期	芦刈梅吉作	高さ二・三 cm 縦八・六 cm 横八・六 cm	個人蔵
34	梨子地月に秋草時絵香盆	一枚	明治時代／昭和初期	芦刈梅吉作	高さ三・〇 cm 縦一三・九 cm 横一三・九 cm	個人蔵
35	黒漆蒔秋に欄體時絵棗	一合	明治時代／昭和初期	芦刈梅吉作	高さ三・〇 cm 口径五・三 cm 底径二・七 cm	個人蔵
36	金地福祿寿時絵三組盆	一組	明治時代／昭和初期	芦刈梅吉作	（大）高さ三・五 cm 口径一〇・九 cm 底径四・〇 cm （中）高さ二・八 cm 口径八・九 cm 底径三・五 cm （小）高さ二・四 cm 口径七・三 cm 底径二・五 cm	個人蔵
37	堆朱柘榴文煙草入	一合	明治時代／昭和初期	芦刈梅吉作	高さ六・五 cm 縦九・七 cm 横一三・三 cm	個人蔵
38	黒漆塗秋薄時絵五段重	一組	明治時代／昭和初期	芦刈梅吉作	高さ三三・一 cm 縦二一・九 cm 横一三・二 cm	個人蔵

所蔵者等（鍋三・七・二）などは鍋島家文庫の請求記号を示す）

謝辞

本展の開催にあたり貴重なご所蔵品をご出品頂き、またご協力・ご助言頂きました左記の関係機関、関係各位、ならびにお名前を控えさせて頂いた所蔵家の皆様に厚く御礼申し上げます。
(敬称略・50音順)

御花史料館(当時)

宮内庁三の丸尚蔵館

佐賀県立図書館

佐賀県立博物館・美術館

武雄市図書館・歴史資料館

養福寺

芦刈 逸子

芦刈 賢一

芦刈 茂

芦刈 千彦

芦刈 信城

芦刈 美佐子

芦刈 吉朗

今川 泰靖

植野 かつり

川副 義敦

児玉 綾子

才藤 あずさ

竹下 正博

福井 尚寿

古川 美智子

吉岡 昭三郎

吉岡 康雄

本展は、平成22年度文化庁美術館・歴史博物館活動基盤整備支援事業「佐賀城下絵図を読み解き、まちづくりに活かそう!」の連携団体ならびに支援団体とともに読み解いた成果です。当館の活動に賛同し共に活動して頂いております左記の団体・諸機関に感謝申し上げます。(50音順)

連携団体

佐賀城げんき会

佐賀大学都市工学科後藤研究室

塚崎・唐津往還を歩く会

鍋島文化を支える会

幕末佐賀科学技術史研究会

プロジェクトA.S.

NPOまちづくり研究所

森と海を結ぶ会

支援団体

佐賀県

佐賀市

徴古館 第51回企画展図録

御城下絵図を読み解く(第二版)

編集・発行

公益財団法人鍋島報効会

〒八四〇-〇八三一

佐賀市松原二丁目五-二二

TEL. 〇九五-二二三-四二〇〇

URL <http://www.nabeshima.or.jp>

発行年月日

平成二十二年十一月八日(第二版)

平成二十八年四月一日(第二版)

印刷

㈱佐賀印刷社

本書の全部または一部を無断にて転載・複製することを禁じます。
©二〇一六 公益財団法人鍋島報効会

鍋島報効会は、本企画展開催時は財団法人でしたが、平成二十五年四月一日に公益財団法人へ移行しました。



城下町
佐賀は
美しい。



徴古館

The Museum CHOKOKAN

NABESHIMA